

杏林大医学部対策

英語

- 読解 1「パンデミック抑止策におけるデータ主導型決定の課題」英問英答：空所補充、内容真偽、内容説明、同意表現、主題
読解 2「脳はどのように読みとるか」英問英答：空所補充、内容説明、同意表現、内容真偽、主題
- 文法・語い：空所補充
- 会話文：空所補充
- 文法・語い：誤り指摘

数学

- ベクトル：垂線のベクトル、二等分線のベクトル、傍接円の半径
- 行列：逆行列、合成変換、回転行列
- 三角関数、整式：合成変換、チェビシェフの多項式、3次方程式の解と係数の関係
- 微・積分法：三角関数の極値と面積、回転体の体積

化学

- 無機：ハロゲンの性質と反応
- 有機・理論：芳香族化合物の分離、有機化合物の反応、逆滴定
- 理論：電解質の水溶液の浸透圧
- 理論：酢酸エチルの加水分解の反応速度

物理

- 力学：斜面上の単振り子とバネ振り子
- 波動：ヤングの実験、回折格子
- 熱力学：コックでつながれた2室の気体の変化
- 電磁気：R, C, L 並列交流回路の電流と電力

生物

- 細胞、タンパク質と生物体：ミトコンドリアの構造と機能、好奇呼吸でのATP生成量
- 植物の反応、タンパク質と生物体：植物の光合成、照度と光合成速度
- 動物の反応：種々の免疫反応と免疫担当器官、遺伝子の再構成
- 分類・進化：ハーディ・ワインベルグの法則、分子系統樹、生物の分類

試験日程

区分	募集人員	出願期間	1次試験日	1次合格発表日	2次試験日	2次合格発表日
一般	91	12/12～1/13	1/20	1/23	1/25	1/27
センター利用	25	12/12～1/13	センター試験 1/14・15 個別試験 2/10 or 11 (選択)	2/15	—	—

傾向と対策

杏林大医学部対策 英語

60分、記述なし。

①<<大問1>>の長文は、医療系の内容を中心に2題の出題だが、専門的な語彙に注釈がつかず、面くらうかもしれない。しかし、その語がわからないままでも問いには答えられるように作問されているので丁寧に読めば必ず答えが文中にあることを実感して本番を迎えましょう。

②<<大問2>>の文法問題、<<大問4>>の正誤問題は、基本的な文法・語法・熟語を幅広く確実に身に付け、その上で処理速度を意識しながら徹底的に練習しておくことが最も効果的で唯一の対策です。

③<<大問3>>の会話問題は意外と難問もあるので確実に3題は得点できるよう過去問を中心に練習していきましょう。

杏林大医学部対策 数学

60分で大問4題。大学はこの試験に何を望んでいるのだろうか。こんなの全部解けない、という声が聞こえてきそうだが、その通り！全部は解けないのだ。試験の意図を知れば受け方も必然的に変わってくる。とはいえ、絶対的なスピードを望んでいることも事実。杏林数学攻略の秘策は工夫にある。工夫とは知ればすぐに使えるものではないが、知ることで見える、新しい世界がある。それをものに出来るかは、あなたの意識の持ち方次第。

杏林大医学部対策 化学

60分間の解答時間では足りないくらいのボリュームでスピードとの勝負。グラフや論述の問題も多い。8割くらいが標準レベル～定番問題だが、深い考察を要求する問題も少数ではあるが出題される。「分子の構造と性質」、「水素結合」、「希薄溶液の性質」、「酸・塩基の電離平衡」、「弱酸の電離」、「金属イオンの分離」は頻出で、電離平衡はpKaなど少し高度なものが出題される。表層的な丸暗記では解けなかったり引っかかったりする問題が多いので、原理や原因を掘り下げた勉強をしていきたい。また、論述問題もあるので膨大な問題演習で論述にも慣れ、問題を速く正確に解ける訓練を積んでおきたい。

杏林大医学部対策 物理

杏林大学の入試問題は一問一問の難易度は標準的であり、かつ2008年度から出題形式がマークシートになったため点数が取りやすいと思いがちですが、広い範囲から様々な現象を聞いてくる上に問題数が多いため、スピードも必要になります。

この講座では基本公式は証明が出来るくらいまでのしっかりとした基礎学力を養い、また、使う公式の選び方や計算の工夫の仕方など、素早く解を求めるための方法を紹介し、本番で高得点をとれる実力とスピードを身につけさせます。

杏林大医学部対策 生物

2008年から全問マークシート方式。出題内容に偏りはなく、知識問題と考察問題は各大問ごとにバランスよく配置されている。問題数は多く、120分2科目という時間は短く感じる受験生が多いだろう。本講座では、出題が予想されるいくつかの単元の解説と問題演習を通じ、短時間で効率よく得点できる力を養う。